



三河商人道 PART 99

合名会社 備前屋
専務 中野邦夫 君

創業天明二年(1782)で、お分かりになる方も多いはず。そうです。東海道岡崎宿伝馬の和菓子屋備前屋です。こちらで専務取締役として仕入・製造・販売と全体の総括をされているのが中野さんです。とてつもない歴史と伝統のある備前屋は、現在の社長である父・敏雄氏で8代目だそうです。長く続ける秘訣は「世の中に必要とされる会社であれ」を方針に掲げやってきたからと気さくに言われる中野さんですが、商売共通のエッセンスとして大変重みのある言葉でした。

伝統に驕ることなく、地元の人たちにおいしいといってもらえることを喜びとして、最優先に取り組んできた結果が「あわ雪」や「手風琴のしらべ」を全国区に押し上げ、ふるさとのお菓子として愛されることとなりました。今後も地域に密着して、岡崎の歴史と伝統に根付いたお菓子作りと時代に合わせて必要に応じて変化もさせていきたいと言われます。

青年部へは平成元年3月の設立と同時に入会され、平成4年に振興委員長、平成10年、16年には副会長を務められた中野さんは言います。なんとYEGでの思い出は「全て」であると。その中でも特に印象深いものは、平成4年の東海ブロック岡崎大会では若手として素晴らしい先輩から多くを学び、平成20年から続いているジュニア・エコノミー・カレッジでは若手のお手伝い役として頼まれたことは全て引受け、若手の成長を陰ながら見守ったことだそうです。ジュニエコでのご活躍は記憶に新しいところです。こうやってYEG魂は継承されていくのですね。

そんな後輩思いの中野さんからのメッセージです。「全ては事業の中から生まれる。YEGから何かを得たいのなら、まずは自分が、YEGに対して何ができるかをよく考えて行動することである。やればやっただけ応えてくれるのがYEGである。折角入ったのだから精一杯やって欲しい。」とありがたいお言葉を頂きました。

因みに記者の子供の頃の夢は「あわ雪」を1人で一本食べることでした。

取材：本田・安藤



温和な表情が素敵です



店内の様子



熱心に語られる中野さん



「あわ雪」ファンの記者達と記念撮影